

株式会社AirX 藤園光英

fujizono@airx.co.jp

2026年2月



1, AirXについて

- 会社概要
- 市場環境
- ロードマップ

2, 空飛ぶクルマの取り組みについて

- 空飛ぶクルマとは？
- eVTOLメーカーとの提携
- eVTOLの取り組み例(愛媛大洲実証や催事等)
- eVTOLの未来について

社名	株式会社 AirX(エアークス)
設立	2015年2月
創業者	代表取締役 手塚 究、取締役COO 多田 大輝
従業員数	取締役4名 正社員50名(2026/02時点) 業務委託含む 従業員数90名
事業内容	ヘリコプターの遊覧/移動サービス ヘリコプター/航空機の売買 eVTOLを活用した新規事業開発

CEO 手塚 究



- 2015年 ● ヘリコプター遊覧 リリース
- 2018年 ● 空の移動革命に向けた官民協議会 参加
- 2019年 ● シリーズA資金調達
- 2020年 ● 西武HDや京急電鉄と「移動便」フライト実証
- 2022年 ● 無操縦者eVTOL EHangパートナー契約
- 2023年 ● アジア初、空飛ぶクルマ離島間の海上試験飛行に成功
- 2024年 ● 世界3大航空機メーカーのエンブラエル傘下の EVE社と業務提携

株主

ANRI JFR

マネックス fenox (双日CVC)

近鉄VP 京急電鉄

西武HD サンワサプライ

ヒト・コミュニケーションズ

NEXCO東日本 ダイビル

ニッセイ・キャピタル

Pegasus Tech Macbee eight

マイクロアド

提携事業会社

鉄道会社

西武HD 近鉄HD

京急電鉄 東武電鉄

高速道路

NEXCO東日本

デベロッパー 東急不動産

三井不動産 三菱地所

日本交通 クラブツーリズム

つばめ交通 日光江戸村

ANA HIS

J.フロントリテイリング

大丸松坂屋

三越伊勢丹

オリックス

提携航空会社

アカギヘリコプター株式会社

朝日航洋株式会社

エス・ジー・シー佐賀航空株式会社

第一航空株式会社

小川航空株式会社

雄飛航空株式会社

匠航空株式会社

つくば航空株式会社

株式会社 ノエビア アビエーション

静岡エアコミューター

有限会社ジャパンフライトサービス

AirXが 人の可能性を解放する

空を自由に使えるインフラを作り
人々のあらゆるライフスタイルを変革し
人生を豊かにします。



陸上交通の「ペイン」

陸上交通は、「渋滞による生産性の低下」「供給の不足」「維持が困難なインフラ環境」「インバウンドへの対応」など大きな課題を有している

消費者のペイン

道路渋滞の経済損失は **12兆**
/GDP2%の甚大な影響に。毎年
大型の自然災害が起きていること
と同様の損失

公共事業のペイン

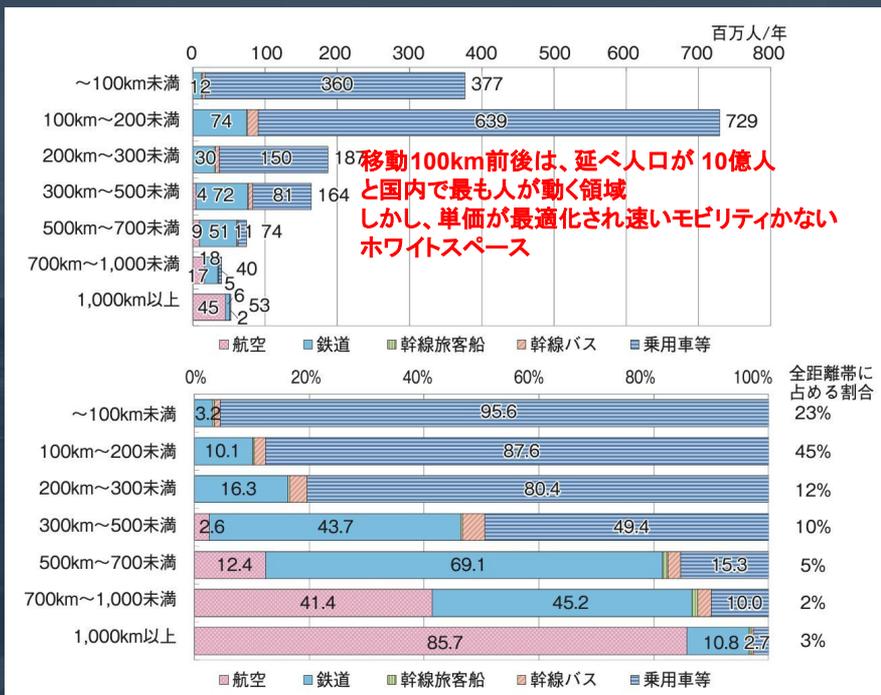
現在日本にある公共共通や道路
は、少子高齢化により担い手が
減少し、更に昨今の原価高騰や
人件費高騰による建設コストの
肥大化により、**これ以上の拡大
が困難**な状況に

航空業界のペイン

次世代航空の担い手となる回転
翼の航空会社は、高齢化が加速
し、人材流出が多く発生。供給の
上限が、需要の上限となり、**新た
な産業創出は危機的状態**

10億人の100km/2時間半の移動を30分に

100km前後を移動する人口は延べ10億人と国内最大
 移動時間を1/5にするモビリティで、最高の体験を提供し、空が当たり前の環境へ



出典 国土交通省輸送量とその背景及び交通事業等の動向

フライト

自社サイト「AIROS(エアロス)」にてヘリコプターの
遊覧/移動、プライベートジェットの手配を簡単に！

【遊覧】(チャーター:1機丸ごとレンタル)

東京遊覧 20分 59,800/1組

富士山遊覧 70分 250,000/1組

【移動】(チャーター:1機丸ごとレンタル)

三重高級ホテル アマネム直通便 160万円

オンデマンド配車 200万円前後

【ヘリポート】

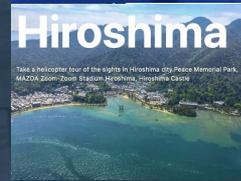
所在地 全国11箇所(スポット利用が可能な場所 300箇所)

関東

- ・東京ヘリポート、船橋、大船、木更津
- ・御殿場、川島、つくば

関西

- ・大阪ヘリポート、八尾空港、京都



既存のヘリコプターサービスをアップデート

認知いただくプロセス、商品検索のしやすさ、価格、予約の利便性、機材手配の効率化、多言語対応の全てをアップデートすることで、ゼロからマーケットを創造

	BEFORE	AFTER
出発地の立地	地方の空港施設内	都心の徒歩20分圏内
価格	20分 180,000円	20分 59,800円
予約受領までの時間	1週間	5分
予約可能日時	1ヶ月先前後	当日予約可～数ヶ月先
カスタマーサポート	なし(内勤や整備の方が対応)	専属カスタマーサポート設置
予約サイト	自社サイト/他社委託	自社サイト/自社運営(日英中全て対応)
メディア露出	ほぼなし	ヒルナンデス、めざましTVなど
マーケティング	ほぼなし	日本語/英語ともに検索No.1
アライアンス	ほぼなし	西武、京急、三菱地所など

バーティカルプラットフォーム

川上から川下を全て内製化 & 垂直統合し、プラットフォームを構築
全体を統制することで模倣困難性を高め、eVTOL時代でもそのまま活用できる仕組みに

2015年頃: 従来のヘリコプター業界



2022年頃: AirX参画後のヘリコプター業界



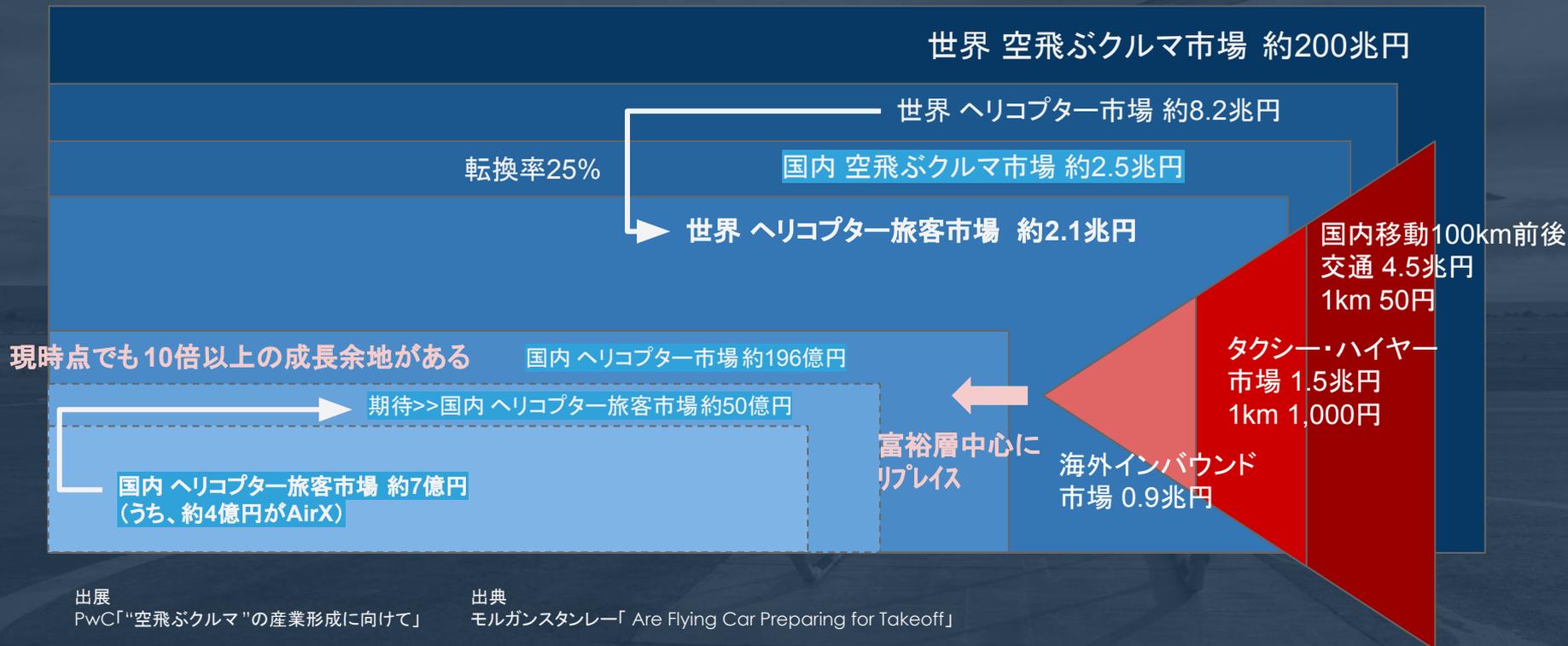
各バリューチェーンでトップクラスの実績

各バリューチェーン、それぞれで優位性を作ることが大きなレバレッジに
また部分競合する企業から必要とされ共生しながらマーケットの成長に寄与することが可能



世界200兆円 / 国内2.5兆円 (2040)

国内の既存交通を高単価なものからリプレイス
価格の低減と共に、交通インフラとしてマーケットを拡大





海外事例 / 顕在化しているフライト市場

NYだけで売上 136億

NYでは、ビジネスマンの
仕事や観光におけるの必須アイテムに

遊覧

(事例)NYでは年間 35万人/売上高 76億を形成

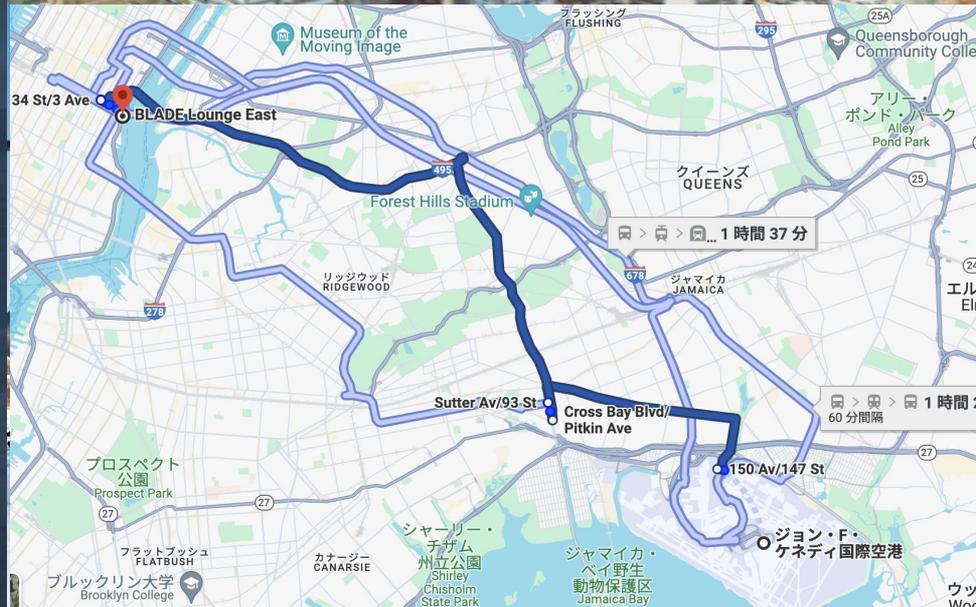
NYの観光客約5,000万人 / 東京の観光客約5億人
であり、東京はNYの10倍以上のポテンシャルがある
また、NYで●●タワーなど景観を楽しむサービスは年間800万人が利用。4%
の転換率。東京の景観サービスは1,400万人。転換率4%で試算すると56万人
が顕在ターゲットとなる

移動

(事例)NYでは年間 28万人/売上高 60億を形成

マンハッタン↔JFK空港の便が人気
同様に東京は10倍以上のポテンシャルがある

confidential



空港アクセス
東京ー成田空港1人9,800円～



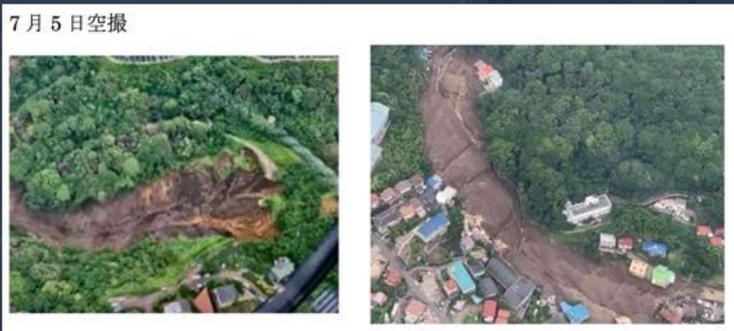
陸空での災害支援協定：
台風19号で陸路が遮断され、アレル
ギー食品を緊急物資輸送



静岡県、初島
離島の交通アクセス、観光遊覧



静岡県熱海市土石流災害
緊急上空調査、機材人員搬送



大阪湾岸、八尾(百舌鳥古墳)、観光遊覧
京都、伊勢志摩への交通アクセス



単価に合わせたターゲットと用途戦略で市場を拡大

toCサービスは「インバウンド」→「国内富裕層」→「国内一般層」へと展開



1 AirXについて

- 会社概要
- 市場環境
- ロードマップ

2 空飛ぶクルマの取り組みについて

- 空飛ぶクルマとは？
- eVTOLメーカーとの提携
- eVTOLの取り組み例(実証や催事等)
- eVTOLの未来について

空飛ぶクルマとは？

2025年の万博、
日本、大阪・関西で開催！



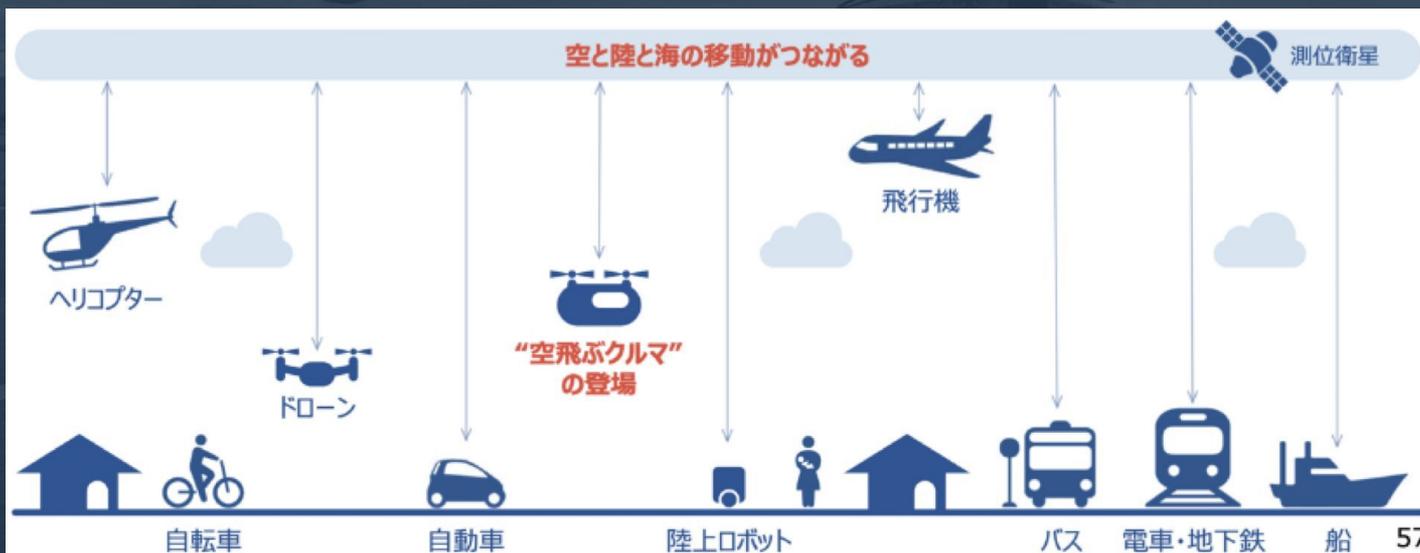
空飛ぶクルマとは？

空飛ぶクルマ



電動垂直離着陸機

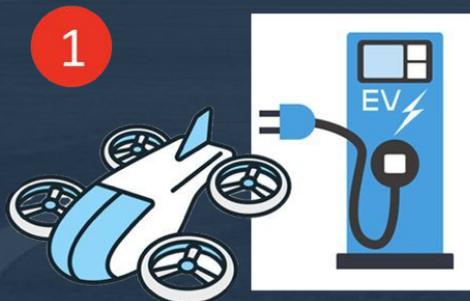
英語で言うと、^{イーブイツール}eVTOL



空飛ぶクルマとは？

大きな3つの特徴

電気でうごく



自動運転



上下まっすぐに
飛ぶ



空飛ぶクルマとは？

大きな3つのタイプ

1

マルチローター
タイプ



2

リフトクルーズ
タイプ



3

ティルトローター
タイプ



空飛ぶクルマとは？

1-2. 空飛ぶクルマの主なユースケース ～空飛ぶクルマは何に使われるのか

- 空飛ぶクルマの主なユースケースとして、都市や地方における移動、災害や救急医療における緊急時利用、離島や過疎地の交通、観光目的の利用などが考えられる。それぞれに利点と課題が存在しており、バランスをみながら普及を目指していく必要がある。

空飛ぶクルマの各市場の特徴と課題

都市エアタクシー	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界の深刻な都市渋滞の解消 ● 市場が大きく、大規模な経済効果 	離島交通	<ul style="list-style-type: none"> ● 全国420の有人島がありニーズが大きい ● 技術・インフラ面で比較的容易 ● 収益性（観光にも使う必要有）
	<ul style="list-style-type: none"> ● 激しい国際競争 ● 社会受容性（安全、騒音）の獲得 		<ul style="list-style-type: none"> ● インフラ整備負担の軽減 ● 日本国内には限界集落が約16,000ヶ所存在 ● 自動車と比しての時間短縮効果がどこまで存在するか
二次交通 地方都市間交通	<ul style="list-style-type: none"> ● 地方空港の多くは羽田便もしくは大都市便のみであり、改善余地が大きい ● 空港から中核都市・観光地へのアクセスも改善が必要なケースが多い ● 企業誘致のために交通の利便性向上が必要 	過疎地交通	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会受容性が高い ● アメリカでは日本の約16倍のドクターヘリが存在 ● 患者近くへの離着陸と夜間運航の実現が差別化要因（患者の約5割が夜） ● 着陸場の省人化実現が必要 ● フライトドクターの数に制約
	<ul style="list-style-type: none"> ● 飛行の確実性が必要 		<ul style="list-style-type: none"> ● 南海トラフ地震など大災害の予測があり、活用のニーズ・社会受容性がともに高い ● 常用の使い道が必要 ● 着陸のフレキシビリティが必要
遊覧観光・レジャー	<ul style="list-style-type: none"> ● 技術的に実現が比較的容易 ● 観光業者の関心が高い 	救命救急医療	<ul style="list-style-type: none"> ● 南海トラフ地震など大災害の予測があり、活用のニーズ・社会受容性がともに高い ● 常用の使い道が必要 ● 着陸のフレキシビリティが必要
	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光シーズンしか利用できない ● 飛行の確実性が無いと旅行ツアーの日程に組み込まれない可能性も 		<ul style="list-style-type: none"> ● 南海トラフ地震など大災害の予測があり、活用のニーズ・社会受容性がともに高い ● 常用の使い道が必要 ● 着陸のフレキシビリティが必要
<p><凡例> 利点 課題 利点&課題</p>			

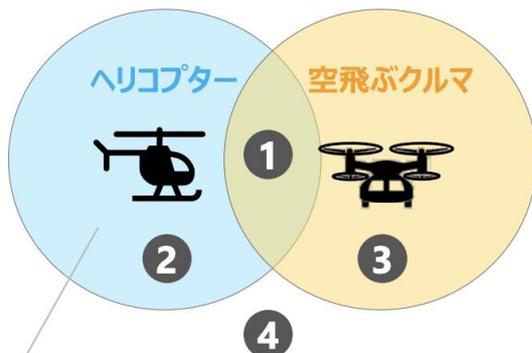
出所：慶應義塾大学 空飛ぶクルマ研究ラボ・DBJ作成

空飛ぶクルマとは？

2-2. ヘリコプターとの比較 ～ヘリコプターと空飛ぶクルマそれぞれの優位性

- ヘリコプターと空飛ぶクルマは、ともに地上の制約にとらわれずに点間的高速移動が可能であり、滑走路が不要なため離着陸に大規模なスペースを必要としないという特長がある。共通する弱点として、悪天候に弱く、大人数の輸送にも適していないことが挙げられる。
- ヘリコプターと空飛ぶクルマを比較すると、前者は燃油を利用して長距離飛行が可能であり、ホバリング性能の高さやペイロードの大きさに優位性がある一方、空飛ぶクルマは製造・整備コストが低く抑えられる上に、騒音の小ささや安全性においても優れている。

2つのモビリティの特長と弱点



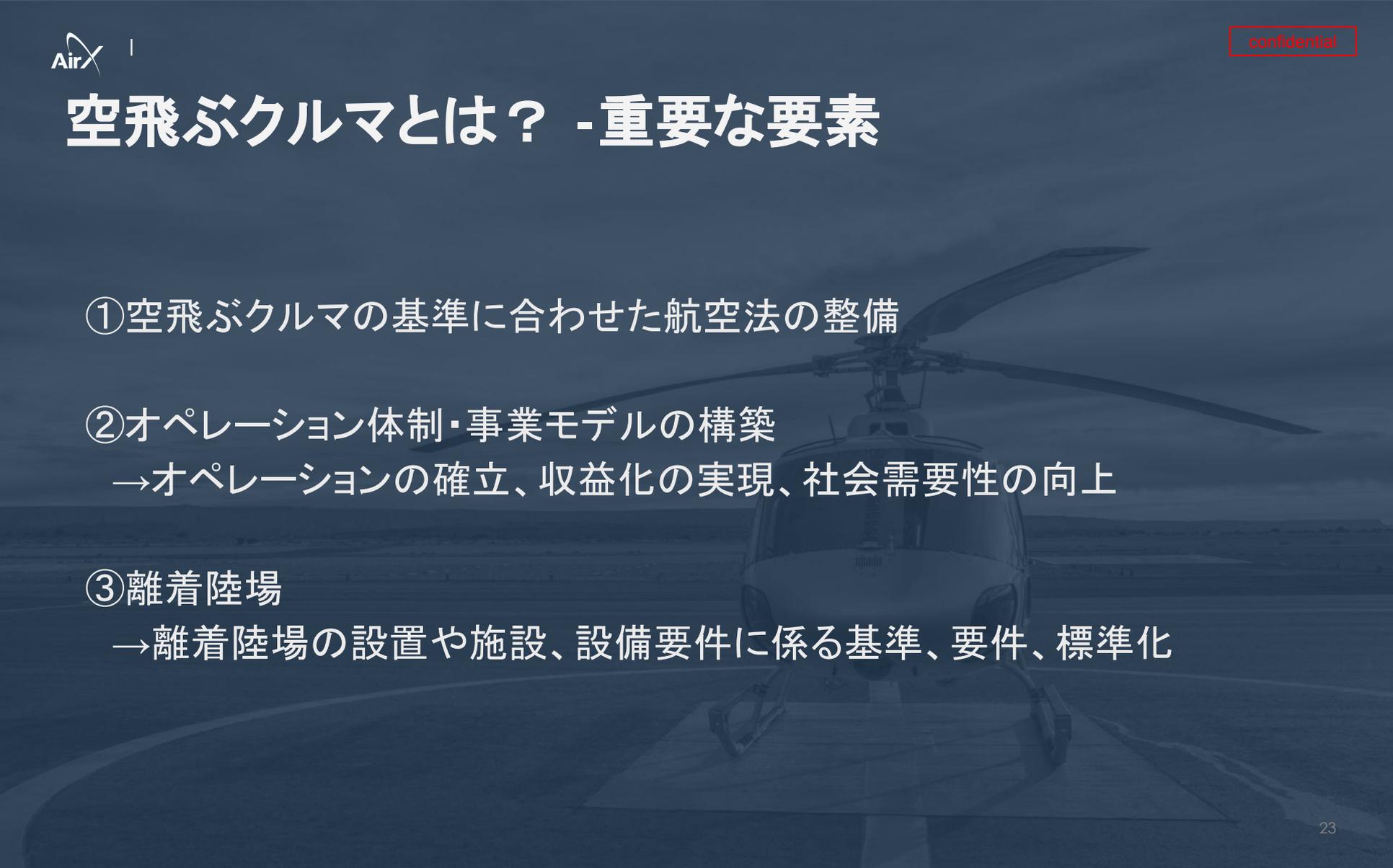
※旅客輸送用途での利用が多い
小型単発機/双発機の機体を想定

- ・ 航続可能距離：500km~800km
- ・ 搭乗定員数：4~8名
- ・ ペイロード：400Kg~
- ・ 機体名：R44(ロビンソン)、AS350(ユーロコプター)など

1 共通の特長	<ul style="list-style-type: none"> ● 点間高速移動 ● 大規模な離着陸スペースが不要 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 山や河川などの地上の制約や渋滞に縛られず、出発地と目的地を直線で結ぶ高速移動が可能 ✓ 滑走路がいらないため、空港のような大規模なスペースを必ずしも必要としない
2 ヘリコプターの強み	<ul style="list-style-type: none"> ● 長時間/長距離移動 ● 高い運航性能 ● 高ペイロード 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 給油なしで数時間以上飛行が可能 ✓ 俊敏な機動性と高いホバリング性能 ✓ 数百kgの重量物の運搬が可能
3 空飛ぶクルマの強み	<ul style="list-style-type: none"> ● 低コスト ● 低騒音 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 比較的シンプルな構造であるため、ヘリよりも製造・整備コストが抑えられる ✓ 電動化とそれに伴う機体形状の変更により、地上に届く騒音が小さい
4 共通の弱点	<ul style="list-style-type: none"> ● 冗長性や自動化 ● 天候の影響の受けやすさ ● 輸送効率の低さ 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 複数プロペラにより冗長性がある ✓ 自動化が実現すればヒューマンエラーも排除可 ✓ 目視飛行のため天候の影響を受けやすい（※計器飛行の実現により解決可能） ✓ 搭乗可能な定員が少ない

出所：ヒアリング等を基にDBJ作成

空飛ぶクルマとは？ - 重要な要素

- 
- ① 空飛ぶクルマの基準に合わせた航空法の整備
 - ② オペレーション体制・事業モデルの構築
→ オペレーションの確立、収益化の実現、社会需要性の向上
 - ③ 離着陸場
→ 離着陸場の設置や施設、設備要件に係る基準、要件、標準化

空飛ぶクルマとは？

1. 官民協議会の運営

官民協議会下で実施してきた各種会合については、必要に応じ引き続き実施する。

①官民協議会

事務局：国土交通省航空局無人航空機安全課（以下「無人機課」という。）
経済産業省製造産業局次世代空モビリティ政策室（以下「空モビ室」という。）

内 容：②～⑤の検討内容の報告等

②実務者会合

事務局：国交省航空局無人機課、経産省空モビ室
内 容：③～⑤の検討内容の共有と議論、ConOpsの検討等

③ユースケース検討会

事務局：経産省空モビ室
内 容：ユースケースやその実現に向けた課題の検討・議論

④大阪万博タスクフォース

事務局：経産省空モビ室、2025年日本国際博覧会協会
内 容：万博における空飛ぶクルマの実現に向けた幅広い関係者の関わる論点の議論

⑤機体の安全基準WG、操縦者の技能証明WG、運航安全基準WG、事業制度SG、離着陸場WG

事務局：国交省航空局無人航空機安全課
（機体の安全基準WG：航空機安全課、運航安全基準WG：交通管制企画課、
離着陸場WG：空港計画課、経産省空モビ室と共同）

内 容：各種制度（無操縦者航空機含む）の検討

空飛ぶクルマとは？

空の移動革命に向けたロードマップ(改訂案)

2022年3月18日 空の移動革命に向けた官民協議会

このロードマップは、いわゆる“空飛ぶクルマ”、電動・垂直離着陸型・自動操縦の航空機などによる身近で手軽な空の移動手段の実現が、都市や地方における課題の解決につながる可能性に着目し、官民が取り組んでいくべき技術開発や制度整備等についてまとめたものである。

		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2020年代後半	2030年代以降			
		試験飛行から商用運航の開始			商用運航の拡大		サービスエリア、路線・便数の拡大			
利活用	人の移動	試験飛行・実証実験等			大阪・関西万博	都市：二次交通 → 都市内・都市間交通 → 都市圏交通への拡大(ネットワーク化)	救急：医師派遣 → 患者搬送			
	物の移動					地方：観光・二次交通 → 域内交通・離島交通 → 地方都市間交通への拡大	自家用運航の開始			
	ビジネス波及	航空関連事業				離島・山岳の荷物輸送 → 都市部での荷物輸送 → 輸送網の拡大				
環境整備	機体の安全性の基準整備	基準整備(座席数9席以下、操縦者の搭乗有り・無し)		需要に応じた多様な機体の基準整備(自律飛行等)			機体多様化・自律化・高密度化・就航率向上等への対応	技術動向等に応じた制度の見直し		
	技能証明の基準整備	操縦者・整備者の基準整備(遠隔操縦を含む)		多様な機体に対応した制度整備				技術動向等に応じた制度の見直し		
	空域・運航	低高度における安全・円滑な航空交通のための体制整備(万博における空飛ぶクルマに対する空域管理等)		運航拡大に対応した体制整備					利活用の動向等に応じた制度の見直し	
		運航安全に関する基準のガイドライン(荷物輸送、万博における旅客輸送等を想定)		高度な運航に対応したガイドライン改訂(自律飛行、高密度化等への対応)						技術動向等に応じた制度の見直し
	事業の制度整備	航空運送事業の基準整備(荷物輸送、万博における旅客輸送等を想定)		高度な事業に対応した基準・制度整備(操縦者の搭乗しない旅客輸送等)						利活用の動向等に応じた制度の見直し
	離着陸場	制度整備	既存空港等・場外離着陸場の要件整理		既存制度に基づく空港等・場外離着陸場の利用					
		社会実装のための環境整備	国際標準に沿った空飛ぶクルマ専用離着陸場の基準整備		空飛ぶクルマ専用離着陸場の利用					
	社会受容性	課題整理	課題整理 ・建物屋上への設置 ・屋上緊急離着陸場等の活用可否の整理 ・市街地等への設置等		環境整備 ・建物屋上設置の基準整備 ・環境アセスメント方法の整備等		建物の建設計画、都市計画、地域計画等への反映			
			建物屋上への設置 (既存の建物屋上の利用 → 新規建設・設置)		市街地への展開の本格化					
		社会受容性	実証地域での住民理解の獲得		万博を通じた認知度向上		受益者の増加、社会課題解決等を通じた受容性向上			
試験環境	福島ロケットテストフィールドの試験飛行拠点としての活用・整備、研究・人材育成等の機能拡充									
技術開発	安全性・信頼性	安全性・信頼性の確保、機体・部品の性能評価手法の開発				安全性・信頼性の更なる向上、低コスト化				
	運航管理	航空機・ドローン・空飛ぶクルマの空域共有技術の開発				本格的な空飛ぶクルマの高度な運航を実現する運航管理技術の開発				
		悪気象条件・高密度・自律運航等に対応した基礎的な通信・航法・監視技術の開発								
電動推進等	モーター・バッテリー・ハイブリッド・水素燃料電池・騒音低減技術等の要素技術開発									

日常生活における自由な空の移動という新たな価値提供と社会課題解決の実現

空飛ぶクルマとは？（既存離発着場開放の取り組み）

福井県

くらし・環境 医療・福祉 観光・文化 教育・子育て 建設情報

ホーム > くらし・環境 > 交通・道路 > 福井県内の場外離着陸場申請図面を公開中！

ガイドナビを閉く

いいね！0 ツイットする

福井県内の場外離着陸場申請図面を公開中！

最終更新日 2025年3月4日 | ページID 094202

県では、市町と連携して県内各地付近に場外離着陸場（航空法第79条ただし書）を確保するための取り組みを行っています。福井県内でのヘリ運航の導入を促し、福井空港のさらなる利用促進を図るため場外離着陸場申請図面の公開を開始しました。新着図面も順次公開していきますのでぜひご利用ください。

※場外離着陸場として使用するには、法第79条ただし書に基づく航空届への申請が必要です。図面の使用時には、（1）県と市町に連絡したうえで、（2）使用票を県に提出してください。

場外離着陸場の一覧・ダウンロード

※OO:場外離着陸場位置図 (PDF形式 141キロバイト)

【図面公開中の場外離着陸場】

順番	自治体	場外離着陸場	図面	担当課連絡先
1	勝山市	スキーザーム勝山 第4駐車場	※スキーザーム勝山 第4駐車場 (PowerPoint形式 2,700キロバイト)	勝山市 未定前田課 TEL:0779-88-8114 Email:kouan@city.katsuyama.lg.jp
2	鯖江市	日野川河川公園1・2	※日野川河川公園1 (PowerPoint形式 2,905キロバイト) ※日野川河川公園2 (PowerPoint形式 2,303キロバイト)	鯖江市 商工観光課 TEL:0778-43-2230 Email:ISC-Shokai@city.sabai.lg.jp
3	越前市	万葉菊花園駐車場 (タケフナイフビレッジ隣り)	※万葉菊花園駐車場 (タケフナイフビレッジ隣り) (PowerPoint形式 2,816キロバイト)	越前市 観光課 TEL:0778-22-3007 Email:kankou@city.echizen.lg.jp
4	坂井市	貴顕ふれあい公園駐車場	※貴顕ふれあい公園駐車場 (PowerPoint形式 2,819キロバイト)	坂井市 企画政策課 TEL:0776-40-3013 Email:hokoku@city.fukui.saka.lg.jp
5	永平寺町	永平寺町宮第3駐車場	※永平寺町宮第3駐車場 (PowerPoint形式 1,096キロバイト)	永平寺町 商工観光課 TEL:0776-61-3921 Email:kankou@town.ohetsujigij.p

https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kouwan/airport/offsite-list.html

6	永平寺町	九頭竜川河川敷 (永平寺町下浄法寺地蔵) ESHKOTO 付近	※九頭竜川河川敷 (永平寺町下浄法寺地蔵) ESHKOTO 付近 (PowerPoint形式 1,124キロバイト)	永平寺町 商工観光課 TEL:0776-61-3921 Email:kankou@town.ohetsujigij.p
7	南越前町	レインパーク南条 (グラウンド)	※レインパーク南条 (グラウンド) (PowerPoint形式 2,251キロバイト)	南越前町 観光まちづくり課 TEL:0778-47-6002 Email:kankou@town.niham-echizen.lg.jp
8	南越前町	ふれあいシーサイドパーク	※ふれあいシーサイドパーク (PowerPoint形式 2,047キロバイト)	南越前町 観光まちづくり課 TEL:0778-47-6002 Email:kankou@town.niham-echizen.lg.jp
9	越前町	アクティブランドグラウンド (道の駅「越前」横)	※アクティブランドグラウンド (道の駅「越前」横) (PowerPoint形式 1,704キロバイト)	越前町 商工観光課 TEL:0778-34-8720 Email:youkou@town.echizen.lg.jp

※場外離着陸場の利用には、別途法第79条ただし書の規定による申請手続きが必要です。
法第79条ただし書による申請に用いるは、現地の状況と図面に相違がないことを確認し調査修正してご利用ください。

外部リンク

航空：空港等以外の場所における離着陸の許可等に係る連絡先 - 国土交通省
法第79条ただし書の規定による許可事務（場外離着陸場における離着陸の許可） - 国土交通省

場外離着陸場の管理運営について

順番	時期	項目	主体
1	随時	草刈り、塗装修繕等場外離着陸場の維持管理	市町
2	図面使用時	図面に関する照会窓口 図面使用届の受付	県
3	フライト前 (法第79条ただし書の規定による)	法第79条ただし書に基づく航空届への申請	場外離着陸場を利用する事業者等
4	各市町にて規定の時期	場外離着陸場の利用予約窓口 地域への通知	市町
5	フライト前～当日	場外離着陸場を利用する事業者等の管理・指導	市町
6	フライト当日	離発着時の規制対応、安全確保、ヘリの誘導 パリケード等による場外離着陸場の立入り制限	場外離着陸場を利用する事業者等
7	各市町にて規定の時期	利用料金の徴収	市町

場外離着陸場の使用規定

図面使用時には下記使用規定に定める福井県場外離着陸場申請図面使用届出書をご提出ください。
※OO:01使用規定 (PDF形式 119キロバイト)
※OO:02福井県場外離着陸場申請図面使用届出書 (Word形式 21キロバイト)

アンケート

ウェブサイトの品質向上のため、このページのご感想をお聞かせください。
 分かりやすかった 使いにくかった 知りたい内容が書かれていなかった 書ききれない項目があった

より詳しくご感想をいただける場合は、kouwan@pref.fukui.lg.jpまでメールでお送りください。

空飛ぶクルマメーカーとの提携

AirX、中国の「空飛ぶクルマ」メーカーEHang(イーハン)社と販売パートナー契約を締結

「EH216」を活用し日本でエアモビリティ市場を展開 大阪万博での運航を目指す

株式会社AirX 2022年1月20日 22時00分



空のモビリティプラットフォームを開発する株式会社AirX（本社：東京都新宿区、代表取締役：手塚 究、以下「AirX」）は、EHang Holdings Limited（本社：中華人民共和国 広東省 広州市、以下「EHang」）と事業提携し、EHangが開発するEH216 seriesのAAV(自律飛行型航空機)に関する日本国内におけるPre-sale agreement（プレセールス契約）を締結したことをお知らせいたします。

EH216(Passenger Transportation): 旅客輸送用

都市間の旅客輸送、観光地での遊覧飛行などの利用を期待しています。

最大積載量 220kg



AirX、国内初*エンブラエル傘下「EVE Air Mobility」とeVTOL購買権に関する契約を締結

航空管理システムも同時導入し、2027年の国内展開を目指します。

株式会社AirX 2024年4月18日 09時00分



ヘリコプターや空飛ぶクルマなどの次世代のエアモビリティの供給源となるインフラを構築する株式会社AirX（本社：東京都千代田区、代表取締役：手塚 究、以下「AirX」）は、EVE Air Mobility(NYSE: EVEX; EVEXW、代表取締役：Johann Bordais、以下「EVE」と、同社が開発する電動垂直離着陸機(eVTOL)の購買権に関するLOI契約を日本で初めて締結したことをお知らせいたします。

(*)2024年4月現在 当社調べ



空飛ぶクルマメーカーとの提携

AirX、Eve Air MobilityとeVTOL航空機2機の導入に向けた基本契約を締結

日本の成長戦略を見据え、次世代エアモビリティの社会実装を推進

株式会社AirX

2026年2月5日 14時56分



AirXの創業者兼CEO 手塚 亮 (左) とEve Air Mobilityのサービス・オペレーションソリューションおよびエコシステム担当バイスプレジデントであるルイス・マクアド(右) David McIntosh / AIN

先進的なエアモビリティサービスを提供する株式会社AirX（以下、AirX）は、次世代電動垂直離着陸機（eVTOL）を開発する Eve Air Mobility（NYSE: EVEX, EVEXW, B3: EVEB31）と、eVTOLの導入に関する拘束力のある基本契約を締結したことを発表します。

本契約には、初期導入として2機のeVTOLに加え、将来的に最大50機まで拡張可能な追加発注オプションが含まれています。日本における次世代エアモビリティの社会実装を見据えた、戦略的な取り組みの一環となります。

近年、空飛ぶクルマ（以下、eVTOLに統一）は、日本政府においても地域課題を解決する次世代モビリティとして位置付けられています。「地方創生に関する総合戦略」では、離島・山間部における移動利便性の向上や観光振興を通じた「持続可能な生活インフラの実現」に向けた施策の一つとして明記されており、また「日本成長戦略会議」においても、日本の国際競争力を左右する航空・宇宙分野の検討テーマとして例示されています。

さらに、2026年1月22日に開催された内閣府「航空・宇宙ワーキンググループ」においても、航空・宇宙分野の競争力強化に向けた検討の中で、eVTOLを含む次世代航空機の社会実装が論点の一つとして取り上げられ、官民連携による実装推進の重要性が示されました。



東京上空の飛行を想定し、AirXプラットフォームで運航するEve Air MobilityのeVTOL機

AirXは、こうした国の政策動向を踏まえ、Eve Air Mobility（以下、Eve）と連携し、日本におけるeVTOLの早期実装を目指します。Eveは、世界的に多くのプレーヤーを獲得しており、初期の生産数が限られる中で、日本市場での実運用を見据え、AirXと導入に向けたパートナーシップを構築しました。

EveのeVTOLは、安全性・信頼性・環境性能を重視して設計されており、騒音や排出量を抑えながら快適な乗客体験を提供します。AirXは、自社が提携する運航会社による航空運送事業許可（AOC）に基づく運航実績とオペレーションノウハウを活かし、eVTOLサービスの円滑な立ち上げを推進します。

Eve Air MobilityのCEOであるJohann Bordaは、次のように述べています。

「AirXとのアジア初の契約は、単なるマイルストーンではなく、都市モビリティの新時代の幕開けです。アジア太平洋地域は、持続可能な航空輸送への世界的な変革を主導する存在になるでしょう。我々は共に、都市のつながり方、移動のあり方、そして発展の仕方を再定義するソリューションを切り拓いています。このパートナーシップは、次世代に向けた、よりクリーンでスマートな未来への大胆な一歩です。」

AirX 創業者兼CEOの手塚 亮 は次のように述べています。

「空飛ぶクルマ(eVTOL)は、単なる新技術ではなく、地域の移動課題や観光、さらには災害対応など、社会インフラとしての価値が期待されています。Eve Air Mobilityとのパートナーシップを通じて、日本における実運用を見据えた形でeVTOLの導入を進め、次世代の空の移動を現実のものにしていきます。」

今後AirXは、2029年の実装を目標に、機体メーカー、運航パートナー、自治体、関連事業者との連携をさらに強化し、日本における持続可能なエアモビリティの確立を目指していきます。

【株式会社AirX 会社概要】

会社名：株式会社AirX

住所：〒102-0083 東京都千代田区麹町6-6-2 番町麹町ビルディング5F WeWork麹町

設立：2015年2月23日

代表取締役：手塚 亮

事業内容：旅行手配事業、航空運送代理事業

AirXは「空の移動革命」を見据え、空の交通デジタルプラットフォームを開発するテクノロジー会社です。

ヘリコプターやプライベートジェットに加え、空飛ぶクルマと呼ばれる次世代航空機(eVTOL)の、仕入れから販売、ヘリポートの設置・運営など、エアモビリティの供給源となるインフラを構築しております。

空飛ぶクルマメーカーとの提携

AIN SINGAPORE AIRSHOW NEWS

DAY 3 FEBRUARY 5, 2026 AIRONLINE.COM

Bombardier expands infrastructure to increase presence around the world

And Santana I Planner, Aircraft Services

AIN SINGAPORE AIRSHOW NEWS

DAY 3 FEBRUARY 5, 2026 AIRONLINE.COM

Unparalleled maintenance. It takes dedication, a sense of urgency and another million square ft of infrastructure.

We are expanding our infrastructure to increase our presence around the world, to always have room for you.

AIRX DREAMS OF ELECTRIC EVES

Indonesia is likely to see a significant increase in the number of electric aircraft (eVTOL) operations in the next five years, dependent on when it starts certifying them, he noted.

AIN has been arranging these types of flights throughout Japan in Hokkaido, from its former customer holding air operator certificates. For nearly a year, the Airline Service Center has been providing support to the company as it works to become a certified air operator.

AIN has been arranging these types of flights throughout Japan in Hokkaido, from its former customer holding air operator certificates. For nearly a year, the Airline Service Center has been providing support to the company as it works to become a certified air operator.

AIN SINGAPORE AIRSHOW NEWS

DAY 3 FEBRUARY 5, 2026 AIRONLINE.COM

AirX Dreams

It's a billion at the end of this decade, leading to more urban congestion that eVTOLs can help alleviate.

According to Maud, eVTOLs will greatly decrease travel times in cities such as Tokyo. For example, he said an Eve Air Mobility aircraft could fly from Tokyo Haneda Airport to a city-center vertiport in 15 minutes, versus more than one hour by car. Eve's aircraft has a baggage area that can fit two checked and two carry-on bags to facilitate such airport transfers, he added.

"Asia-Pacific has a huge appetite for eVTOL, AAM, including passenger and light cargo flights," Maud said.

LOI supports M-346F deal for Indonesia

Leonardo signed a letter of intent (LOI) with PT ESystem Solutions Indonesia and the Indonesian Ministry of Defense (MoD), paving the way for cooperation in supporting Leonardo's M-346F Block 20 light combat aircraft/advanced trainer in Indonesian service. The aircraft was selected by the MoD to fulfill operational and training needs as part of a force-wide modernization effort. The M-346F would replace the aging BAE Systems Hawk, among other types.

Included in the LOI are a range of support, maintenance, overhaul, and training capabilities, as well as human capital development. Following the signing, the three parties are now embarking on discussions with the intention of signing a procurement contract.

Indonesia's intended Block 20 M-346Fs are configured as light fighters with an AESA radar, Link 16 datalink, large-area cockpit display, electronic countermeasures, and new weapons systems. The aircraft will be equipped with aerial refueling capability and can conduct both air-to-air and air-to-surface missions.

At the same time, they are outfitted for the advanced training role as part of a comprehensive system that includes ground-based training tools and the ability to insert virtual and constructive elements into a live training scenario. **D.D.**

空飛ぶクルマの取組み①沖縄離島間実証



Taking off for the Future

2023年6月実証実験

空飛ぶクルマ (AAM)

沖縄初・離島初空飛ぶクルマの海上2地点間試験飛行

日本初Vertiport (みなし離着陸場) 離着陸実証

評価項目 A : 海上2地点間試験飛行 (フィジビリティ)

評価項目 B : みなし離着陸場 (航空保安システム検証)

評価項目 C : パーティポート運用 (リードタイム計測等)

評価項目 D : 社会受容性 (騒音・風速、住民の期待・不安等)

空の移動革命に向けた官民協議会メンバーである、「日本空港コンサルタンツ」「AirX」「EHang」に加えて、大手総合建設コンサルタントの「建設技術研究所」、空港等における不動産・インフラのエキスパート「空港施設」による、共創プロジェクトが始動！



試験飛行の実施体制

✓ 本試験飛行は、機体提供から運航、オペレーション、離着陸場計画・設計・運用、環境影響評価、まちづくり・地域振興等の能力を有する4社と関係各社や地元自治体による協力体制で実施しています。

■実施主体

<空港計画>

- ・航空局調整
- ・離着陸場計画・設計
- ・電気通信
- ・空域設計



- ・全体調整
- ・空域設計
- ・離着陸場計画・設計
- ・電気通信設備の必要性検証

<まちづくり>

- ・自治体展開
- ・まちづくり
- ・環境影響評価
- ・総合交通計画
- ・新モビリティ



- ・実施計画書、報告書とりまとめ
- ・環境影響評価
- ・社会受容性の検討

<空港施設運用>

- ・空港施設整備
- ・空港施設運用
- ・ユーティリティ・インフラ提供



- ・スポットの運用検討
- ・付帯施設・設備に関する運用検討

<機体・運航>

- ・機体保有
- ・空飛ぶクルマの運航
- ・サービスプラットフォーム提供



- ・機体提供
- ・空飛ぶクルマの運航(2地点間オペレーション)のフィジビリティ

■協力



空飛ぶクルマの取組み②兵庫県、神戸市事業

大阪湾バイエリアにおける空飛ぶクルマの実機を活用した実証事業 ～“空の観光”創発プロジェクト～

(1) 環境整備に資する実証実験

■応募者・実施体制

<申請者>

- 株式会社AirX

<共同事業者>

- 一般社団法人MASC
- 株式会社建設技術研究所

<協力事業者>

- 株式会社日本空港コンサルタンツ
- 空港施設株式会社
- 株式会社岡山航空
- アリアル・イノベーションLLC
- EHang
- JR東日本企画
- JTB神戸支店



(2) 環境整備に資する調査・検討

■ねらい

空飛ぶクルマの実機を用いた技術的検証(安全運航、離着陸場、環境)及び「観光」に関するサービス性の検証を行い、兵庫・大阪湾バイエリアでの事業化を目指す。

■今年度事業概要

- 空飛ぶクルマの安全航行に関する検証
(航空交通管制の有効性・障害物との衝突回避システム、コリドーの有効性の検証、旅客輸送機と空域を分離する実証試験)
- 観光を見据えた有望ルート設定と実証飛行
(観光を見据えた有望ルートの設定、空飛ぶクルマの実機を活用した実証飛行の実施)
- 空飛ぶクルマの離着陸場の設計・運用に関する検証
(パーティポートの設計・運用に関する検証)
- 空飛ぶクルマの騒音に関する検証
(ヘリ及び空飛ぶクルマの騒音計測・騒音モデル構築、シミュレーションの実施)



■今後のロードマップ

2024年度

2025年度

2026年度

2026年度以降

兵庫県内にて、ヘリのサービスイン
空飛ぶクルマ離発着場の設計、プレ運用
大阪・関西万博でのデモフライト

空飛ぶクルマ及びヘリの拠点
神戸市周辺に設置・運用
遊覧飛行の開始

拠点駅、観光地への旅客輸送の開始

空飛ぶクルマの取組み③日本初 UAMセンター開設

空飛ぶクルマの実用化を推進。eVTOLの中国「EHang」、つくば市に日本初のUAMセンターを開設

© 2024年5月16日



空飛ぶクルマの取り組み④機運醸成イベント等



AirX、修学旅行の企業訪問を受け入れ「空飛ぶクルマ」の最前線を紹介

滋賀県の中学生11名が訪問し、「空飛ぶクルマの可能性」と「挑戦することの大切さ」を学ぶ授業を実施

株式会社AirX 2024年6月11日 07時00分



ヘリコプターや空飛ぶクルマなど、次世代のエアモビリティの供給源となるインフラを構築する株式会社AirX（本社：東京都千代田区、代表取締役：手塚 究、以下「AirX」）は、2024年5月30日(木)に野洲市立野洲中学校（所在地：滋賀県野洲市）の中学3年生11名を企業訪問として受け入れ、「空飛ぶクルマがもたらす可能性」や「挑戦することの大切さ」といったテーマで授業を行いました。



空飛ぶクルマの取り組み④機運醸成(愛媛 / 大洲)



空飛ぶクルマの取り組み④機運醸成(相模原編)



空飛ぶクルマの取り組み⑤ 長野県山岳地帯初飛行

白馬に、空飛ぶクルマとドローンがやってくる!

2024 空フェス in 白馬

信州次世代“空”モビリティ体験フェスティバル

イベントの最新情報はこちらから

ビジネス DAY 2024年10月11日(金)
ファミリー DAY 2024年10月12日(土)

会場 白馬クロスカントリー競技場(スノーヘア)

※雨天時は内容を縮小して決行予定

空飛ぶクルマ

1 デモ飛行
※航空局へ認可申請中
空飛ぶクルマの実機を使用したデモ飛行を行います。

2 体験搭乗&写真撮影
空飛ぶクルマに乗り込んで写真撮影ができます。※飛行は行いません

3 ヴァーチャル飛行体験
VRゴーグルで空飛ぶクルマのフライトを模擬体験できます。

ドローン

4 デモ飛行 (特選専用ドローン)
災害時を想定した支援物資運搬のデモ飛行を行います。

5 機体展示
様々なドローンの機体を展示します。

6 操縦体験
小型のドローンを操縦できます。

キッズコーナー

9 キッズコーナー
10/12のみ 空飛ぶクルマのおもちゃ操縦、ぬり絵、ゆるキャラとの写真撮影などができます。

10/12(土) 同時開催
はくばあそびまなびフェス

プログラム

10月11日(金) ビジネス DAY	10月12日(土) ファミリー DAY
10:00	10:00 実証飛行セレモニー
11:00 ① デモ飛行 ② 空飛ぶクルマ体験搭乗 ③ ドローン展示	11:00 ① デモ飛行 ② 空飛ぶクルマ体験搭乗 ③ ドローン展示
12:00	12:00 ④ 空飛ぶクルマ VR体験 ⑤ 空飛ぶクルマ体験搭乗 ⑥ ドローン展示
13:00	13:00 ⑦ 空飛ぶクルマ VR体験 ⑧ 空飛ぶクルマ体験搭乗 ⑨ キッズコーナー
14:00 ① デモ飛行	14:00 ① デモ飛行 ② 空飛ぶクルマ体験搭乗 ③ ドローン展示
15:00	15:00 ④ 空飛ぶクルマ体験搭乗 ⑤ ドローン展示
16:00	16:00

信州空モビリティシンポジウム
信州における次世代の空モビリティ活用の可能性について各界のキーパーソンが登壇・発表するほか、パネルディスカッションも行います。

ファシリテーター デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社 伊藤 寛 氏

登壇者(予定)
(一社) 白馬村観光局 事務局長 堀島 洋次郎 氏
(株) スクットエ共同代表 和田 寛 氏
アルビオンホールディングス(株) 取締役 今村 正平 氏
経済産業省 次世代空モビリティ政策室 山本 健一 氏 (オンライン参加)
(株) AirX 執行役員 藤原 光英 氏
(株) NEXT Delivery 代表取締役 CEO 田路 重輔 氏 他

信州初! 山岳リゾート初!
空飛ぶクルマ・ドローン実証飛行セレモニー

信州ならびに山岳リゾートで初めての実証となる空飛ぶクルマ、災害時などに支援物資輸送が期待されるドローンの実証行政トップも駆けつけます。

出席者
阿部 守一 長野県知事
丸山 俊郎 白馬村長

ACCESS

自宅用車ご利用の方 白馬村観光局中心(土合橋南)

公共交通機関ご利用の方 白馬村 AI オンデマンド 乗合交通

白馬デマンドタクシー
AI(人工知能)が、乗車予約に応じて所定停留所間の最適なルートを選んで走行する新しい乗合交通です。
TEL 0261-71-1111

アプリはこちら

会場 MAP

センターハウス
③ 次世代空モビリティパネム展示・動画放映
④ 信州空モビリティシンポジウム【2】

ブースエリア
① ドローン展示
② ドローン操縦
③ 空飛ぶクルマに乗ってご行きたい?【土】
④ 空飛ぶクルマ VR体験
⑤ キッズコーナー【土】

敷食エリア(土)(キッチンカー)
⑥ 空クルマ体験搭乗
⑦ 空クルマ体験搭乗

はくばあそびまなびフェス【土】
⑧ 空クルマ飛行
⑨ ドローンデモ飛行(実機準立入禁止)
実証飛行セレモニー【土】

ドローン飛行経路
空飛ぶクルマ飛行経路

ご注意
・テスト飛行中及びデモ飛行中は、飛行エリア内への立入を禁止いたします。
・実証時、撮影用のドローンが飛行します。主催者以外のドローンの飛行は禁止とさせていただきます。
・スタッフが現場でご案内したエリア外においては、ご自身の判断が可能ですが、飛行の観覧が可能です。
・本イベントにはマスクの着用が推奨されます。その場合、撮影された画像がテレビや新聞等で公開される可能性がありますので、あらかじめご承知おきを願います。

主催 信州次世代空モビリティ活用推進協議会

長野県 協力

白馬村

実施機関 ALPICO GROUP

CTI 創建設技術研究所

AirX

Suzuyo

中村クリエイティブエンジニアリング

Macrusubeni

空飛ぶクルマの日本の未来(海外の 2026年現在)



空飛ぶクルマの日本の未来(職場、主要駅での接続)



展開イメージ

- 2025年 関西、関東での空飛ぶクルマの実証飛行や調査、事業検討
- 2026年 空飛ぶクルマ及びヘリの拠点を**主要都市**近郊に設置・運用
- 2027年 空飛ぶクルマでの実証飛行を検討
- 2029年 空飛ぶクルマ(有操縦者)の社会実装
- 2034年 空飛ぶクルマ(無操縦者)の遊覧飛行、旅客輸送開始

最後に、、、

本日を機会に ...

ぜひ、空の利活用、未来社会について
継続的な協議をさせてください !!

一緒に日本の最高な未来を創造しましょう !